

はじめての日本語教室の取り組み



豊丘村教育委員会
(長野県)

1、はじめに

①外国人住民の実態

豊丘村の外国人住民数は本年4月1日時点で118人であり、人口に占める割合は1.75%である（近隣：飯田市1.99%、高森0.93%、松川0.78%、喬木0.85%）。その62%が平坦部の4つの集落に集住している。

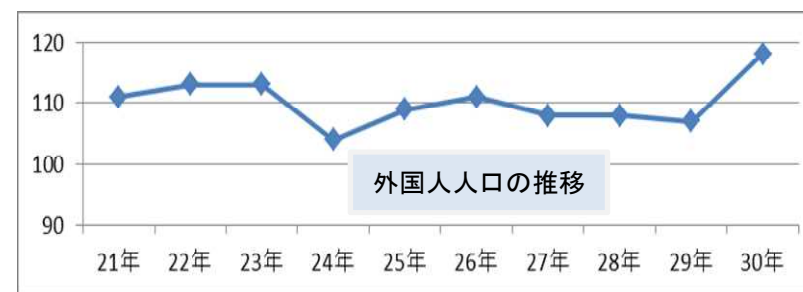
国籍別では、中国が79.7%、フィリピン9.3%、ブラジル7.6%の順となっており、中国籍が多い理由は飯田下伊那地域が満蒙開拓の歴史を背負っており、中国帰国者が多いことに起因していると考える。

在留資格別では在留期間の制限がない永住者が77.1%と圧倒的に多い。

外国人児童生徒は9人であるが、現在のところ、日本語指導が必要な児童生徒はいない。

国籍別(上段は人数、下段はその割合)

中国	フィリピン	ブラジル	その他	計	
94	11	9	4	118	(人口に占める割合1.75%)
79.7	9.3	7.6	3.4	100.0	



在留資格別(上段は人数、下段はその割合)

永住者	定住者	永住者の配偶者	日本人の配偶者	特別永住	家族滞在	技能実習	計
91	8	4	6	1	5	3	118
77.1	6.8	3.4	5.1	0.8	4.2	2.5	100

②これまでの外国人に対する施策

○多文化共生推進プランなし

○未来創生プランの策定(27年度)

2、日本語教室開設の準備

①運営委員会の立ち上げと進行管理

事業採択後、教育長を座長とする9名からなる運営委員会(教育委員会、役場窓口係、保健師、環境係、社協、コーディネーター)を設置し、7回の会合を重ね、準備段階から教室開設、運営の評価を行い、事業の進捗を図った。

②教室開設の目的

中国籍外国人の比率が圧倒的に高いので、そこに焦点を当て、ニーズに即した学習プログラムを組み、地域に溶け込み、コミュニケーション不足によるトラブルや悩みの解消につなげ、住民として自立していくよう支援し、共生の地域づくりをめざすことを主眼とした。

③ボランティアサポーターの設置

良き隣人として学習者と直接接して教室運営に関わるサポーターを、公民館報で公募した結果、9人の村民が名乗りを挙げた。サポーター会議を4回開催し、アドバイザーやコーディネーターから指導をいただいて研修を深めた(写真)。

④ニーズの把握

教室開設前に、18歳以上の外国人住民の学習ニーズを把握するため、DMによりアンケート調査を実施したほか、5人の外国人住民をコーディネーターが訪ね、個別にヒアリングを行った。



⑤募集要項

とよおかむらにほんごきょうしつ
豊丘村日本語教室



豊丘村公民館，为了外国人的日语教室
开始了。

参加的人士使用日语聊天。

然后 逐渐地 日语会 讲得很好。



报名・咨询

「だんだんにほんご」に^{さんか}参加します。

◇姓名 _____ ◇出身 _____

◇Tel _____

※打算带着小孩子来的人士，请您相谈。

とよおかむらこみんかん
【豊丘村公民館 负责：公民馆长 原】

电话 0265-35-9066

FAX 0265-35-2938

电子邮件 kominkan@vill.nagano-toyooka.lg.jp

报名 ●电话
●FAX ●电子邮件
●利用这张纸上面的
任意一个！
截止到 11 月 10 日

平成 29 年度文化庁委託事業 地域日本語教育スタートアッププログラム

时间是？

11 月 16 日(四)
晚上 7：00 开始!!
星期四的晚上
每个月各 2 次截止到
3 月份
总共 10 次

在哪里？



「ゆめあるて」
役場の南边。

谁参加？

想学习日语的人
士，谁都可以来！
还募集日本人支援
人士。

多少钱？

¥0 免费。

※当举办活动等
时，会有需要参加
费的情况。

内容是？ 第 1 次～第 5 次的预定

聊天的题目

- ①11/16 开讲式・说明会・自我介绍等
- ②11/30 邻居的事情
- ③12/7 家里人的事情
- ④12/21 去观看てっぺん公园的灯饰
- ⑤1/11 正月里面的游戏和食物

3、日本語教室『だんだんにほんご』の内容

①参加者数 15人(中国8人、フィリピン1人、イギリス1人、日本5人)

②プログラム

月 日	テーマ
11月16日	開講、オリエンテーション、自己紹介
11月30日	自分の住んでいるところ
12月7日	家族のこと
12月21日	てっぺん公園見学
1月11日	お正月の遊び、食べ物
1月25日	料理の話
2月8日	旅行について
2月22日	折り紙、閉講

※学習のすすめ方はおしゃべりを中心として、学習者とサポーターがグループワークを行った(写真上)。

また、日本語がおぼつかない学習者には、コーディネーターが個別に対応した(写真下)。



★閉講後の活動

餃子づくりで、生徒が先生になる。



③コーディネーターの役割

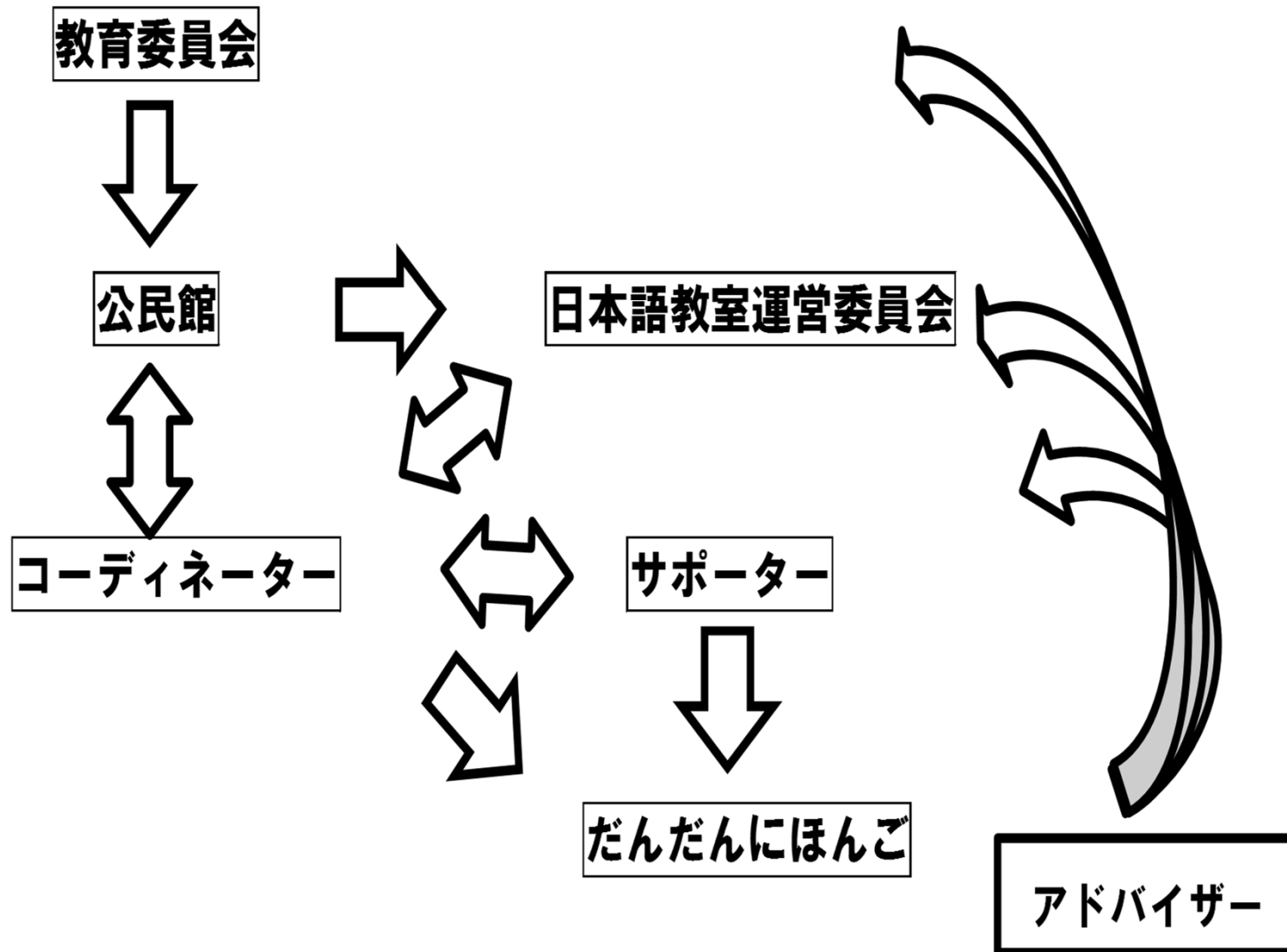
- 運営委員会の参画 12h
- サポーターの指導 12h
- 日本語教室の指導 20h
- 外国人住民のニーズ調査 26.5h
- 受講生募集に関すること 8h



④アドバイザーの助言

- 運営委員会での指導助言
- 村理事者との懇談
- サポーター会議での指導助言
- 教室運営の視察、指導助言

⑤事業の実施体制



4、地域の課題と連携について

昭和初期から敗戦までの満蒙開拓移民は全国で27万人(帰国できたのは11万人)。

そのうち長野県は(3万3千人)と最多で、そのうち飯田下伊那地域が最多(8.4千人)。

昭和50年代から、長野県により中国残留孤児の引き揚げ事業が行われ、村内の県営住宅に入居が進む。

その後においても、帰国者を頼った中国人の増加、或いは、日本人の妻、帰国者の妻として中国人が増えることにつながった。

しかし、生活文化の違いや、日本語の不自由により、日常生活に必要な情報が十分に得られないことで近隣から孤立したり、地域住民との間で誤解やトラブルを生じ易い。

また、自身の健康、子どもの教育、地域防災、ゴミ処理など、行政の立場からも課題があると見ている。

- ①外国人住民は様々な課題を抱えている。
- ②外国人住民は日本語を学びたいが、指導者がいない。
- ③外国人住民は行政の枠を超えてつながりたい。



行政としての課題の共有化
総合的な施策の確立（多文化共生推進プランなど）
広域的な日本語教育の展開

ご清聴ありがとうございました。

